

センター便り

公益財団法人浅香山病院 臨床研究研修センター
〒590-0018 大阪府堺市堺区今池町3丁3番16号
TEL : 072-229-4882 (代)
ホームページアドレス : <https://www.asakayama.or.jp>

作業療法室 顧問より

探訪 作業療法

作業療法室 顧問 いのうえ てつお 井上 鉄男

当院の作業療法に関する古い資料を読み返した。それは患者さん達を目の前にして、何とかよくなって貰いたいと、時にやり過ぎたり、やらなかったり、非難されたりしながら汗水たらした先人の挫折と再生の歴史であった。

昭和35年10月発行の「作業療法とは」とタイトルの付いた古いレジュメがある。青刷りの活版印刷で発行元は「清風会 堺脳病院 作業療法 推進委員会」。作業療法士法の公布が昭和40年、作業療法士など存在しない。レジュメには「入院患者さんは次第に活動性が低下し、生活が不規則になるので、精神荒廃防止が最も重要な目的である。より高い社会性を身につけることが早期の社会復帰につながる。」とある。何とかしたかったのだ。

昭和35年 生活療法専用施設作業センター竣工。アイロン、軍手編み、絨毯、事務、洋裁など。昭和38年8月31日付の「作業療法実施に伴う副産物収支決算報告書」では、5か月間で収入120万円超。やりすぎだ。

昭和39年 IT (Industrial Therapy) 活動として院内作業開始。参加者はIT作業（栄養課、被服課、庶務課、用度課、営繕課、事務課）で80名。センター内作業（軍手、和洋裁、絨毯）で50名。病棟内軽作業で400名と記されている。入院患者1200名の時であった。

昭和41年 院外作業療法開始。近隣の工場と委託契約をして院外に患者さんを派遣した。クリーニング店2か所で6名、ソース工場4名、自転車部品製造2か所で11名、おしぼり屋21名、給食屋2名などに勤務していた記録が残る。この後5年間で本採用となって退院していった患者さんは40名に達した。

IT作業に関して依岡信幸副院長（当時、生活療法科長）が「清流」に21回に渡って連載した解説文がある。後の作業療法批判を予言した戒め深い文章である。「IT作業（給食、洗濯、営繕、事務関係、病棟雑役な

ど病院管理業務上の仕事）を実施するうえで一番問題となるのは、作業療法の名のもとに患者を使役しているのではないかと言うことだ。病院は人件費節約を目的として患者の労働力をあてにしているといけない。そのための最低条件は患者の労力を必要としない十分な職員を配置することだ。また、作業を治療として意味のあるものとし、患者の人権を十分尊重していくためには、①医師は基本的な方向付けをし、患者や指導員の性格や適性を考慮して方針を立てる。②看護師は専ら患者の作業意欲を盛り立て、作業場の雰囲気や快適なものにするように心を配る。③作業指導員は作業だけでなく、集団精神療法的働きかけを行うだけの力量を持たなければならない。」ここに正義がある。だが、精神療法的働きかけの力量を身に着けるのは並大抵のことではない。

IT作業も、院外委託作業も昭和55年までに全て廃止となる。直接のきっかけは洗濯場での患者さんの上肢切断となる事故が起こったこと、委託契約を結んでいたおしぼり屋の経営者が反社会的組織だった事が判明したことなどであった。

精神科作業療法協会という団体がある。現在会員数約300名。有資格者で作る日本作業療法士協会よりも歴史は古く、昭和40年設立で、精神科で働く職員（看護師、PSW、作業指導員）らが作った組織であ



昭和59年依岡先生と

る。設立時、当院から8名参加。筆者はそのうち4名を知っている。私と話すときは普通の気のいい爺さんたちであった。しかし患者さんに対しては「おい、こら、お前。」の対応である。悪気のあるなしと言うより、徒弟制度の親方と弟子の感覚なのだろう。

この頃1960年代にイギリスで始まった精神医療開放運動である**Therapeutic Community（治療共同体）**の思想が、日本の医療機関にも徐々に浸透してきた。これにより精神病院での作業療法は使役的側面が強く、患者と治療者の上下関係を助長する根源だとやり玉に上がった。

昭和44年**クラブ活動開始**（茶道、華道、音楽、手話、美術、書道、園芸）。Therapeutic Communityの名のもとにPSWや臨床心理士がクラブ活動を広げていった。運営に当たり、チーム医療3原則を確認している。①患者さん中心の原理。②対等の原理。③取り組みの自由の原理。ここにも正義が

ある。

昭和56年**作業療法施設認可**。OT室は木造2階建て、トイレが男女共有でひとつしかなかった。

昭和59年**リレーションセンター活動開始**。

同年7月18～19日 第1回コミュニティバザール開催。バザー自体が珍しい時代であった。新聞社が取材に来た。中古自転車を求めて開場前に列が出来た。

同年9月8日 第1回ライブコンサート「あなたと夜と音楽と」開催。ポスターやチケット作成に時間を要した。近隣の喫茶店や飲食店にポスターを貼ってもらった。チケットは筆者も含め出演者が手売りして回った。コンサートは有料でアルコールワンドリンク付きであった。仲野 實先生が、「酒を飲みながら音楽を聴きたい。」と言い出したからだ。

あれから40年。目の前の患者さんを何とかしたいと言う気持ちは持ち続けてきたと思う。

臨床研究研修センター 特任副センター長より

浅香山病院におけるサブスペシャリティ 精神科領域について

臨床研究研修センター 特任副センター長 たかはし しゅん 高橋 隼



本稿では精神科領域のサブスペシャリティを紹介します。日本専門医機構が管轄する専門医制度において精神科は基本領域の一つですが、2024年10月時点において専門医機構が認定している精神科領域のサブスペシャリティはありません¹⁾。日本精神神経学会が認定しているサブスペシャリティには、一般病院連携精神医学専門医（日本総合病院精神医学会）、認知症臨床専門医（日本精神科医学会）、精神神経薬理学専門医（日本臨床精神神経薬理学会）、森田療法専門医（日本森田療法学会）、日本内観学会専門医（日本内観学会）があります²⁾。

他にも多くの学術団体がサブスペシャリティ（専門医・認定医）資格を設立しています。調べたところでは、日本老年精神医学会、日本認知症学会、子どものこころ専門医機構、日本精神科救急学会、日本睡眠学会、日本てんかん学会、日本心身医学会、日本臨床神経生理学会（脳波分野）、日本精神分析学会、などがありました。（私の知る限り）専門医や認定医の資格が取り決められているわけではないけれど、一般に専門の学問領域とされているものには、依存症、司法精神医学、産業精神医学、などが

あります。他にも摂食障害やうつ病、統合失調症など疾患別に専門を謳うこともあれば、認知行動療法や脳刺激療法など治療手技を専門にすることもあります。

サブスペシャリティの習得には、ある専門領域を実践できるようになる、いくつかのオーバーラップする専門領域を持つ、専門性を極めてその領域の専門家を育成する立場になる、などいくつかのタイプがあります。どのような深さ（高さ?）、広がり度専門領域を持つかは個々人の好みによりますが、何か一つでも自分の得意分野といえる領域があると、自分の足場ができて他の領域を眺める目も肥え、最新の知識と技術を得る中で人との交流も増えて、臨床活動が豊かになります。浅香山病院精神科は、日本総合病院精神医学会、日本老年精神医学会、日本認知症学会、日本臨床神経生理学会（脳波分野）の研修施設です。臨床研究研修センターはその他の領域においてもサブスペシャリティの習得をできるだけサポートしたいと考えていますので、何か興味をお持ちの方はぜひご相談ください。

1) <https://jmsb.or.jp/subspecialty> 2024年10月5日最終アクセス

2) https://www.jspn.or.jp/modules/newspe/index.php?content_id=110 2024年10月5日最終アクセス

『浅香山病院医学雑誌』- 論文紹介 -

石塚 拓也 医師

「アルツハイマー型認知症の周辺症状に対してエスシタロプラムが著効した1例」

浅香山医学 vol.3 : 90-92.2024

増井 太郎 医師

「認知症初期集中支援チームの介入から精神科入院を経て在宅生活に復帰した
ゴミ屋敷の2症例」 浅香山医学 vol.3 : 93-99.2024

安井 慎一郎 医師

「肝性脳症による精神症状が併発していた混合性認知症患者の1例」

浅香山医学 vol.3 : 100-104.2024

臨床研究研修センター副センター長／精神科部長 正木 慶大

浅香山病院医学雑誌第3号に掲載された3名の精神科後期研修医の症例報告を紹介します。3論文はともに2023年3月4日に開催された第131回近畿精神神経学会で発表されました。一つ目は「アルツハイマー型認知症の周辺症状に対してエスシタロプラムが著効した1例」です。認知症の進行により徐々に易怒性や易刺激性の亢進といった周辺症状（BPSD）を呈し当院入院となった事例で当初非定型抗精神病薬を使用したが、不安・強迫的症状から新世代抗うつ薬（SSRI）を開始し改善を認めたため、非定型抗精神病薬を中止できSSRIのみの処方にて退院できた事例でした。易怒性などの症状には非定型抗精神病薬が優先的に処方されがちですが、安全性に問題があると指摘されております。BPSDの不安や強迫的症状緩和には前頭側頭型認知症同様にアルツハイマー型認知症でも有効性が示されており治療手段の一つとして有用性を示せました。二つ目は「ゴミ屋敷状態に対して、認知症初期集中支援チームで介入を行い、精神科への短期入院

を経て、在宅生活の復帰継続ができた2症例」でした。アウトリーチ活動である認知症初期集中支援チームで介入を開始し入院加療中に自宅環境を改善しサービスを整え在宅復帰を行えた事例でした。今回の事例は同居家族がいたにも関わらずゴミ屋敷となり、介入の難しさやその背景などに考察を加えております。三つ目は「肝性脳症による精神症状が併発していた混合性認知症患者の1例」で混合性認知症のBPSD疑いで施設より入院となった事例でしたが入院時の検査で肝性脳症が併発していることが判明し、内科共観で肝性脳症の点滴・内服治療を行ったところ、意識レベル（特に注意障害）の改善で迷惑行為もなくなり施設退院が可能となりました。BPSDと思われる症状についても既往歴などの聴取から身体疾患も鑑別に挙げ精査する必要があると、浅香山病院ならではの一般科と精神科の連携での治療が行えた事例でした。3論文とも専門性が高く、是非治療の参考にしていただければ幸いです。

阿瀬 斐 医師

「急性胆管炎の入院時に判明したたこつぼ型心筋症の1例」 浅香山医学 vol.3 : 105-108.2024

谷口 真美 医師

「洞不全症候群を合併したリチウム中毒の1例」 浅香山医学 vol.3 : 109-111.2024

臨床研究研修センター副センター長／一般科副院長 大村 崇

浅香山病院医学雑誌第3号に掲載された初期臨床研修医の症例報告を2つ紹介いたします。

1つ目は「急性胆管炎の入院時に判明したたこつぼ型心筋症の1例」です。皆さんはたこつぼ型心筋症という病名をご存じでしょうか。「たこつぼ」とはその名の通り、タコを捕獲する壺の事です。心臓の左心室の動きが悪くなり、たこつぼの形になるため日本でこの病名が付きましました。驚くことに英語の病名は、Takotsubo cardiomyopathy です。この疾患は、心臓を養う冠動脈が急に閉塞して発症する急性心筋梗塞とよく似ています。典型的には胸痛と心筋梗塞様の心電図変化がみられます。しかし、心臓カテーテル検査をしても冠動脈に病変はありません。直接的に心筋が障害される病気です。ストレスが誘因となり発症し、大規模災害の時に多く見られることでも知られています。但し、本症例のように胸痛が明確でなく、いきなり心電図の心筋梗塞様変化で発見されることも珍しくありません。筆頭著者は特に急性心筋

梗塞との鑑別に関して詳しく考察していますので、是非一読して頂きこの疾患の診断の参考になれば幸いです。

2つ目は「洞不全症候群を合併したリチウム中毒の1例」です。炭酸リチウムは双極性感情障害でよく使われる治療薬です。しかし、リチウムの有効血中濃度と中毒域は隣接しているため、定期的な血中リチウム濃度の測定が望まれます。通常は外注の検査ですが、当院では院内検査で迅速に出来ます。このため本症例では入院時からリチウム中毒の診断が可能でした。リチウム中毒の症状は多彩で、中でも重篤なものとして循環器合併症があります。徐脈から進行して洞不全症候群で失神が出現すると、急いで対応する必要に迫られます。今回は、一時的ペースメーカーを留置する事も念頭に、イソプロテレノールの投与で凌ぎながら、透析でリチウムを急速に体外へ排除して事なきを得ました。筆頭著者は分かりやすく症例提示し、原因と治療に関して考察しています。是非一読して頂き、今後の医療の参考として頂ければと思います。

浅香山病院 学会・研究会発表等

(2024年4月～2024年9月実績)

■学会・研究会

種類	発表(演題)名	発表者名	所属	会名	発表年月日
学会・研究会発表	1 抗Aβ抗体薬の実装時代の認知症疾患医療センターの役割	釜江 和恵	精	第12回メンタルフォーラム南大阪	2024/4/18
	2 言語障害を抱える患者とのコミュニケーションを支える～関わり方の工夫とデバイスの活用～	繁信 和恵	精	第37回日本サイコソノロジー学会総会	2024/6/14
	3 フードピクチャーを用いた看護師の食支援への意識変容	山本 朝美	看	第25回日本認知症ケア学会大会	2024/6/15
	4 認知症者の家族介護者の感情支援のための多職種アセスメントツールと支援プログラムの開発	山本 朝美	看	第25回日本認知症ケア学会大会	2024/6/16
	5 認知症の入院時初期アセスメントによる職員の意識変容の効果	三好 豊子、河畑 由美、竹内 徹、坂本 敦、川崎 悠哉	看	第25回日本認知症ケア学会大会	2024/6/16
	6 高齢者の睡眠改善へのアプローチ～眠りスキャンから分かったこと～	嶺 由紀子、上新 華月、徳平 佑介	看	第25回日本認知症ケア学会大会	2024/6/16
	7 教育講演「高齢者の発達障害と認知症：支援者にとつての認知症困難事例とされて表面化する地域の発達障害高齢者」	繁信 和恵	精	第26回日本認知症ケア学会大会	2024/6/17
	8 シンポジウム 認知症の医・倫理・法「認知症初期集中支援チームの法的・倫理的課題」	繁信 和恵	精	第120回日本精神神経学会学術総会	2024/6/22
	9 精神科救急病棟での退院支援における多職種連携～看護師が行う多職種連携の内容と意識：質的研究～	辻 翔琉、上田 一輝、住 貴浩	看	第49回日本精神科看護学術学会in熊本	2024/6/28
	10 統合失調症を対象とした認知機能リハビリテーション「CAT」を通して遂行機能と生活に変化が見られた事例	川村 明代	デ	第44回近畿作業療法学会	2024/6/30
	11 当院における高齢者運転免許更新時診断書作成者の認知機能の推移と予後について	繁信(釜江)和恵、正木 慶大	精	第39回日本老年精神医学会総会	2024/7/13
	12 弁膜症を伴う重症心不全に対して、病院連携も活用した集学的治療を要した一例	田村 聡一郎	内	粋心会学会講演会	2024/7/25
	13 COVID-19陽性のCardio Pulmonary Arrest On Arrival家族への対応-救急看護師の関わりを振り返る-	辻野 一、宇野 美佐恵	看	第55回日本看護学会学術集会	2024/9/28
講演・講師・座長	14 認知症の精神症状と神経症状の治療	釜江 和恵	精	大阪府薬剤師会学術研修会	2024/4/6
	15 精神科看護の基本	国本 京美、甲斐 あゆみ	看	一般社団法人日本精神科看護協会「精神科認定看護師教育課程 精神科看護基礎I」	2024/4/10
	16 看護倫理3精神科看護実践と倫理	国本 京美、甲斐 あゆみ	看	日本精神科看護協会認定看護師教育課程研修	2024/4/11
	17 認知症患者への看護の実際	山本 朝美	看	社会医療法人清恵会 清恵会病院「新人職看護職員向け研修」	2024/4/11
	18 地域包括ケアシステムの概要 他	島津 聖子	看	一般社団法人日本精神科看護協会「地域生活を支える社会資源の活用と連携」	2024/5-2027/3
	19 重症喘息患者に対するバイオ製剤の経過	小島 和也	内	シン・重症喘息治療 in Omu	2024/6/6
	20 フルステージのアルツハイマー病治療	釜江 和恵	精	アリゾナバッチ発売1周年記念講演会in南大阪	2024/6/6
	21 医療安全と行動制限	齋藤 雄一	看	一般社団法人日本精神科看護協会大阪府支部「基礎研修会」	2024/6/8
	22 栄養 サルコペニア・フレイル	中原 宣子(座長)	透	第69回日本透析医学会学術集会	2024/6/9
	23 地域生活を支える看護	島津 聖子	看	一般社団法人日本精神科看護協会「精神科認定看護師教育課程 精神科看護Ⅱ」	2024/6/11
	24 自主企画「認知症者の家族介護者の感情支援のための多職種アセスメントツールと介入プログラムの開発」	繁信 和恵(座長)	精	第25回日本認知症ケア学会大会	2024/6/16
	25 重症喘息への取り組み	小島 和也	内	Sakai Severe Asthma Seminar	2024/6/20
	26 作業療法で園芸を活用しよう!	川村 明代	デ	大阪府作業療法士会 泉州ブロック研修会	2024/6/21
	27 精神科作業療法の評価が変われば実践が変わる～作業活動を通した作業療法評価～	川村 明代	デ	第44回近畿作業療法学会	2024/6/29
	28 認知症ケアの実践	山本 朝美	看	社会福祉法人ジー・ケー社会貢献会「台湾 馬偕大学・元培科技大學サマープログラム」	2024/7/3
	29 講演・講師・座長 精神看護学の魅力	小瀧 和人、上田 一輝	看	学校法人西大学園大和大学 看護学科「豊かな教育・看護プロフェッショナルコース」	2024/7/8
	30 認知症家族介護者の過度な感情表出(高EE)に対する感情支援介入について考える	繁信 和恵	精	第39回日本老年精神医学会	2024/7/12
	31 ランチョンセミナー「認知症の情動障害の理解と神経基盤-AgitationとApathyを中心に」	繁信 和恵(座長)	精	第39回日本老年精神医学会	2024/7/13
	32 BPSDの「見立て」を再考する:個別症候か症候群か	繁信 和恵(座長)	精	第39回日本老年精神医学会	2024/7/13
	33 救急初期対応技術	齋藤 雄一	看	公益社団法人大阪府看護協会「2024年度クリティカルケア認定看護師教育課程」	2024/7/17
	34 認知症疾患センターへの相談で抑えるべきポイントについて	三好 豊子	看	特別養護老人ホームハートピア堺「認知症研修会」	2024/7/20
	35 認知症のある利用者・家族への支援	榎本 孝典、林 侑希	リ	大阪府訪問看護ステーション協会「訪問看護師シェナリスト研修 領域別看護-認知症看護」	2024/8/20
	36 「能登半島地震」1次避難所で活動した災害支援ナースから見た被災地のニーズ	齋藤 雄一	看	公益社団法人大阪府鍼灸マッサージ師会「生涯研修会」	2024/8/25
	37 頑張りすぎない介護	三好 豊子	看	堺市社会福祉協議会「認知症家族のための講座」	2024/9/3
	38 こころの健康問題を持つ人の看護-2	正木 慶大	精	大阪警察病院看護専門学校	8回
	39 精神看護学Ⅱ	正木 慶大	精	大阪医専 実践看護学科	18回
	40 精神医学Ⅰ	正木 慶大	精	森ノ宮医療大学 作業療法学科	10回
	41 臨床精神医学	正木 慶大	精	四條畷学園大学 総合リハビリテーション学部	5回
	42 精神医学	正木 慶大	精	四條畷学園大学 総合リハビリテーション学部	4回
	43 精神看護学	正木 慶大	精	大阪公立大学大学院看護学研究科	4回
	44 神経・生心理学	正木 慶大	精	神戸女子大学 心理学部	1回
	45 看護演習	齋藤 雄一	看	公益社団法人大阪府看護協会「2024年度大阪府専任教員養成講習会」	6回
	46 リハビリテーション論	三ツ石 一智、桑山 貴好	リ	大阪総合福祉専門学校	17回
その他	47 入院者訪問支援員の役割に関する考え方 他	島津 聖子(ファシリテーター)	看	福岡県保健医療介護部健康増進課「令和6年度第1回入院者訪問支援員養成研修」	2024/6/30
	48 講義 進行性神経変性疾患のケアについて	釜江 和恵	精	大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻	2024/7/31
	49 事例検討	島津 聖子(ファシリテーター)	看	一般社団法人大阪府訪問看護ステーション協会「精神科訪問看護研修会」	2024/8/4

※一部期間外のものが含まれています

■論文・著書

論文・著書名	著者等(全員)	所属	誌名、巻：ページ、年
1 認知症疾患医療センターで精神科医が期待に応える術と心得	繁信 和恵	精	精神科治療学 39(2):213-218,2024
2 Prevalence of sleep disturbances in people with mild cognitive impairment: A systematic review and meta-analysis.	Wenping Mo, Xiaojie Liu, Miyae Yamakawa, Eriko Koujiya, Yasushi Takeya, Kazue Shigenobu, Hiroyoshi Adachi, Manabu Ikeda	精	Psychiatry research. 2024 Sep;339:116067. doi: 10.1016/j.psychres.2024.116067.
3 Exploring expressed emotion and its influencing factors among family caregivers of dementia people: a 3-month study in Japan.	Xiaojie Liu, Reiko Kanaya, Kazue Shigenobu, Keigo Takiue, Wenping Mo, Eriko Koujiya, Yasushi Takeya, Miyae Yamakawa	精	Psychogeriatrics: the official journal of the Japanese Psychogeriatric Society. 2024 Aug 22; doi: 10.1111/psyg.13183.
4 看護師の目線で診療報酬をとらえる-地域から病院に何かもとめられているのか-	齋藤 雄一	看	精神科看護. 51:13-16,2024
5 全国ラダー行脚～導入・運用の実際～第5回 教育をする側・受け側が一線に育つツールに	高谷 衣美、森元 彰子、齋藤 雄一	看	日看護ニュース. 774:6,2024
6 高齢透析患者の精神面の問題をどうサポートするか	中原 宣子	透	透析療法における様々な疑問に答えるseries. 11:142-144,2024
7 アルツハイマー病の評価尺度-MMSE,ADAS,RBMT,WMS-R,CDR,NPI	中山 愛梨、繁信 和恵	心	精神医学. 66(5):646-651, 2024
8 共感すること、してもらうこと ー精神科病棟での経験ー	住 貴浩 他(編著)祖父江 典人、細澤 仁	心	寄り添うことのむずかしさ-こころの援助と「共感」の壁-(木立の文庫)2023

■主催講演会

講演会・勉強会名	演題名	講師名	開催年月日
1 CKD(慢性腎臓病)教室	腎臓の働きを知ろう	中原 宣子	2024/4/6
2 CKD(慢性腎臓病)教室	運動整一筋力のつけ方ー	三ツ石 一智	2024/6/1
3 精神科リハビリテーション委員会講演会	依存症の理解と回復過程を学ぶ	久世 恭詩(堺ダルク代表)	2024/6/20
4 CKD(慢性腎臓病)教室	腎臓にやさしい食事とは	林 紗綾	2024/7/6
5 CKD(慢性腎臓病)教室	腎臓病を悪化させないための日常生活のコツ	中原 宣子	2024/8/3
6 CKD(慢性腎臓病)教室	薬との上手な付き合い方	大壁 和輝	2024/9/14

■研修医による学会・研究会発表

発表(演題)名	発表者名	会名	発表年月日
1 多形性心室頻拍を合併したQT延長症候群の1例	川越 雄太	第70回プライマリケア合同カンファレンス	2024/9/19

所属：精(精神科)、内(内科)、透(透析センター)、看(看護部)、デ(デイケア室)、リ(リハビリテーション室)、心(臨床心理室)